

『一生懸命』幻の新座市議会報告第79弾!



たかむらともや

2012年3月31日発行

市民と語る会

新しいメンバーで新しい議会がスタートしました。一人会派だった僕にも大きな変化がありました。3人の仲間ができたのです。僕たちは4人で「市民と語る会」という会派を結成しました。公明党、政和会、共産党に続く第四番目の会派で、僕は代表になりました。そして、文教環境常任委員会の委員長になりました。控え室も小さな部屋から大きな部屋に移動し、平林寺の景色を毎日見ることができるようになりました。新人3人と連日語り合い、学びあって、そして、嵐のような3月議会が終わりました。一人会派だった時のような気楽さはない代わりに、毎日誰かと語り合える、そういう喜びを味わいながらの怒涛の1ヶ月でした。

テレビカメラ



この3月議会にはテレビカメラが何度か入りました。この3人はフジテレビの方達です。立川あすか議員の取材に来たのです。それ以外にも多くの記者が議場や僕らの控え室を訪れました。色々と言う人もいますが、“市民と語る会”や新座市議会が注目をされるのはいいことだと僕は思っています。市長提出議案が委員会で否決されることも、不思議なことではなくなりました。本会議でも12対13という僅差での可決が多くなりました。市長与党の牙城を崩すのは難しいですが、7月の市長選が楽しみになってきたのは事実です。みなさんと一緒に市長選の投票率を上げたいと思っています。



市民と語る会の4人です。左から塩田和久、私、立川あすか、木村俊彦です。毎日、語る仲間がいるのはいいことです。控え室に遊びに来てくださいね。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。「教育を語らせたら、止まらない男」。都立石神井高校を経て北海道大学へ。新座五中・六中・二中で21年間を過ごす。2012年、2218票で当選。新しい会派「市民と語る会」を結成。文教環境常任委員長。小中学生対象の「たかやん塾」塾長。「黒目川川づくり懇談会」代表として月に一度の川掃除に燃えている。子ども達の内部被爆を防ぐ為に「給食ゼロベクレル宣言」を訴えている。五・六中の男女硬式テニス部を率いて、関東大会5回、全国大会2回優勝。学級通信「一生懸命」を毎日発行。NHKの「おはよう広場」やインターネットテレビに出演。議員日記は8年2ヶ月、毎日更新し、市民目線の議会報告を毎月発行している。HPIは18万6千アクセスを超える。新座初のツイッター議員であり、ミクシー、facebookでも発信している。日々教育を考え「観光新座」ではなく「教育新座」「環境新座」を訴えている。「脱原発」「反TPP」にも燃える男である。

「脱原発」「反TPP」にも燃える男である。

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 変化

この3月議会には会派構成以外にも大きな変化がありました。それは、各議員の発言の回数が明らかに多くなったということです。特に、我が「市民と語る会」の新人3人がどんどん発言するので、他の新人議員達も発言回数が多くなっていく…そんな雰囲気になってきました。議場で発言するにはかなりの勇気がいります。黙っている方が楽なのです。でも、それに慣れてしまうと……発言をしないで、ただ黙って立ったり、座ったりの議員になってしまう訳で…。僕ら4人はあの選挙の熱さをずっと持ち続けていきます。



③

不思議なことに気付きました。僕ら4人はこの掲示板の一番上にいたのです。偶然？それとも……。



議席番号も変わりました。僕は8番で最前列だったのですが…俊彦議員が23番、あすか議員が24番、僕が25番で和久議員が26番になりました。一番後ろの席なので、議場全体が見渡せます。居眠りしている人などは一発で分かっています。勿論、僕らはコクリともしませんよ。(笑)

③ 意見書1

「原発ゼロを目指す意見書」をこの議会で提案しました。”急ブレーキをかけて、経済は大丈夫なのか”という質問もありましたが、”この原発事故こそが大急ブレーキで日本の経済に与えたダメージは余りにも大きい”と答えました。共産党の小野議員、語る会の俊彦議員、あすか議員が賛成討論してくれました。政和会(自民)は6人全員が退席しましたが、残った全員が賛成してくれ、新座市議会として、国会に提出することになりました。原発は54基中、1基しか稼動していません。あと少しです。

③ 意見書2

川上議員が提案した「市民の理解が得られる形でのがれき処理の受け入れに関する決議」には、市民と語る会、みんなの党だけが反対しました。広域でのがれき処理が絆のように言われていますが、東京都が受け入れた瓦礫を「東京電力の子会社」が処理して大儲け、というような利権絡みの案を受け入れる訳にはいけません。環境省はバグフィルターで99%パーセントセシウム137は取れると言っているようですが、バグフィルターのメーカーは「取れるとは言えません」と言っています。実際には6割程度しか除去出来ていないそうです。広域で燃やすということは、放射能の心配がないところでも、これから心配しなくてはいけなくなるということです。高温で燃やせばセシウムは気化します。気化したセシウムを吸う可能性を増やすのですから、異常もいいところです。福島は勿論、宮城と岩手の瓦礫は地元で処理するのがベストです。運搬費もかかりませんし、処理施設を造る事で、雇用が生じます。一兆以上の予算は東北三県に落とせばいいのです。津波でできた瓦礫には、海底に堆積していた有害物質も含まれている訳で…それを日本中にばら撒くのはどう考えてもおかしいのです。南相馬市の市長が「瓦礫は復興の貴重な財産。瓦礫に土を混ぜて、防潮堤の後ろに防潮林を造りたい」と言えば、官僚が”放射線量がどれくらいか分からないから駄目”というのだからふざけた話です。有害なものを安全な地域に持っていき、処理をするという発想をみなさんはどう思いますか。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m(_ _)m